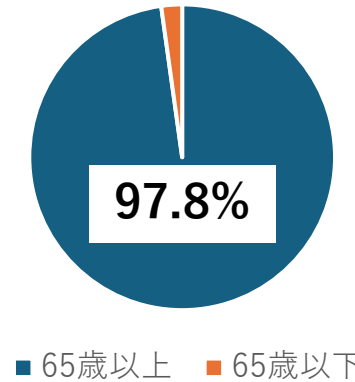


# 肺炎球菌肺炎

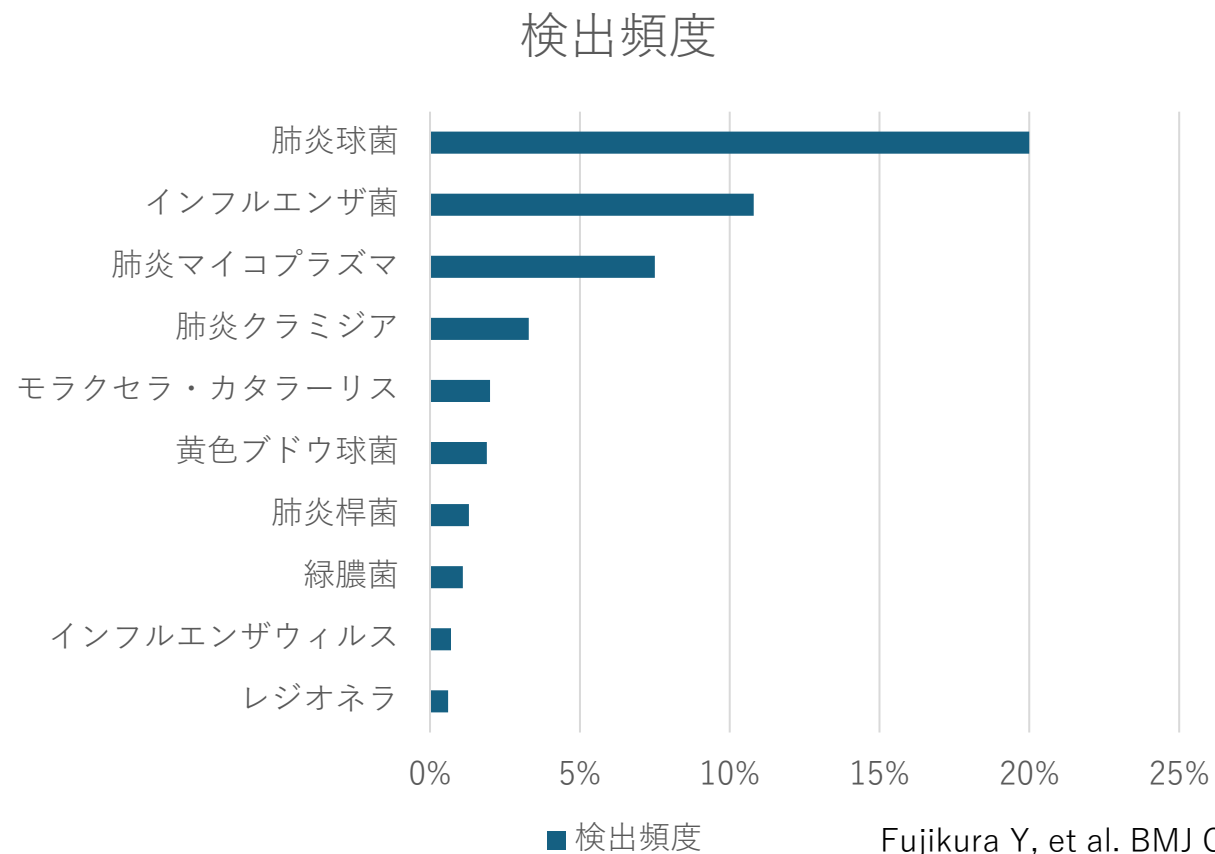


肺炎による死亡者



- 肺炎は年齢が上がる毎に免疫力が低下することでかかりやすくなり、重症化のリスクも上昇していきます。
- 肺炎で亡くなった方の97.8%が65歳以上であったことがわかっており、非常に予防が大切です。

# 日本における肺炎の原因菌



- 日本における肺炎において最も多い原因菌は肺炎球菌となります。肺炎球菌には重症化しやすい菌種があり、手洗い・うがいといった毎日の感染対策とワクチン接種が重要です。

# 肺炎球菌ワクチンについて

- 肺炎球菌は100種類ほどの血清型があり、ワクチンはそのうち頻度の高い23種類をカバーするニューモバックス、20種類をカバーするプレベナー、21種類をカバーするキャップバックスが使用されています。
- ニューモバックスは5年ほどで効果が低下するため追加接種を推奨されておりましたが、プレベナー・キャップバックスは理論上は終生免疫(一生効果あり)を得られるとされています。
- 2026/4から65歳以上定期接種がプレベナーに変更となりました。

# 侵襲性肺炎球菌感染症(IPD)とは

- 肺炎球菌により本来無菌環境である部位(血液、髄液)などに菌が到達し生じる感染症のことです。髄膜炎・菌血症を伴う肺炎、敗血症などがあります。
- 侵襲性肺炎球菌感染症を起こした成人患者にて死亡率22.1%、明らかな後遺症が8.7%に残るデータがあり、非常に危険な感染症です。
- 肺炎球菌ワクチンを接種することで予防を期待できます。

# 肺炎球菌ワクチンの種類

	プレベナー	キャップボックス
カバーする種類	20種類	21種類
侵襲性肺炎球菌感染症カバー率	55.6%	80.3%
肺炎球菌肺炎カバー率	43.7%	71.9%
定期接種	○(65歳時に対象)	×(任意接種のみ)
費用	7920円(公費) 12000円(自費)	14500円(自費)
再接種の必要性	なし	なし
効果の持続	長期	長期
接種方法	筋肉注射	筋肉注射

- 2026/3時点で公費負担があるワクチンはプレベナーです。
- キャップボックスの方がプレベナーよりも肺炎球菌・侵襲性肺炎球菌感染症カバー率は高くなっております。

# 肺炎球菌ワクチン負担額

対象年齢	自己負担額
65歳になる年度の1年間のみ	プレベナー20：7920円(公費補助あり)
65歳以上の方	プレベナー20：12000円(自費) キャップボックス：14500円(自費)

- 熊本市では65歳になる年度の方は公費負担にて上記金額で接種可能です。
- 上記のタイミングを逃した方は自費負担額での接種となります。
- 生活保護世帯の方、市民税非課税世帯の方(住民票上の世帯全員の市民税が非課税)は65歳になる年度1年間のみ接種費用が無料となります。
- 肺炎球菌ワクチン接種は予約が必要ですので、ご連絡ください。

# 当院の肺炎球菌ワクチン方針

患者様の状況	お勧めの対応
過去にニューモバックス接種歴がある方 (2025/3までに肺炎球菌ワクチンを定期接種された方)	前回接種から1年以上経過していればキャップバックスの接種をお勧めします。 追加接種は不要です。
肺炎球菌ワクチンを一度も摂取されていない方	65歳の方（同年度内）：熊本市定期接種（プレベナー）を利用できます。（自己負担額7920円）。より広範囲な菌のカバーをしたい場合は、キャップバックス(自己負担額14500円)をお勧めします。  66歳以上：キャップバックス(自己負担額14500円)をお勧めします。追加接種は不要です。

# 65歳からの肺炎球菌ワクチン接種スケジュール

